

つなぐりのある学習

宮崎県の“つなぐりのある学習”について

(1) 基本方針

宮崎県学校体育研究発表大会では、本研究会の趣旨を踏まえ、児童生徒の発達の段階に応じた望ましい体育学習のあり方について、以下のような共通視点を持ち、研究を推進する。

ア 生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を目指した学校体育の在り方を研究推進する。

イ 研究にあたっては、各校種の研究活動を推進すると共に、各地区（支部）の小・中・高・特が合同研究会を組織し、県学体研研究部と連携して『つなぐりのある学習』の研究推進を図る。

(2) 『つなぐりのある学習』の基本的な考え方

“つなぐり”は、単に教材や領域種目を揃えることによるつなぐりではなく、小学校、中学校、高等学校、そして特別支援学校の12年間を見通し、発達の段階に応じて系統化された指導内容を明確化し、小中高特が同じ視点を持ちながら授業を展開することである。

「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の指導内容を、児童・生徒に確実に身につけさせるために、授業への基本的な考え方や目指す児童・生徒像を明確にし、共通認識を持ちながら研究を進めていく必要がある。

令和6年度 第65回宮崎県学校体育研究発表大会小林・えびの・高原大会 研究計画

1 宮崎県の研究主題 (R5～7年度)

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習
～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

2 部会別研究主題

部会名	主 題
小学校部会	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習 ～児童一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～
中学校部会	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む保健体育科学習 ～生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～
高等学校部会	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む保健体育科学習 ～生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～
特別支援学校部会	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習 ～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

3 主題の設定理由

(1) 学習指導要領の趣旨

学習指導要領の改訂では、「生きる力」について「①何を理解しているか、何ができるか（生きて働く『知識及び技能』の習得）」、「②理解していること、できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成）」、「③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養）」の三つの柱に整理され、育成を目指す資質・能力を明確化した。

その中で、体育科・保健体育科の基本的な考え方としては、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、体育や保健の見方・考え方を働かせた「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力を育成することを目標として示している。

その達成のために、学習過程については、これまでの自己の運動や健康についての課題の解決に向け、積極的・自主的・主体的に学習することや、仲間と対話し協力して課題を解決する学習等を引き続き重視するとともに、三つの資質・能力を確実に身につけるために、その関係性を重視した学習過程を工夫する必要があるとしている。

また、指導内容については、育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って示すこととし、体育及び保健において小学校、中学校、高等学校を通じて系統性がある指導ができるよう示す必要があるとしている。

さらには、運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、年齢や性別及び障がいの有無にも関わらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有し、卒業後も社会で実践することができるよう、共生の視点を重視して改善を図ることとしている。

(2) 宮崎県の児童生徒の実態

令和5年度の宮崎県体力・運動能力、生活習慣等調査では、前年度に比べ、体力向上が見られる項目が増えているが、引き続き低下している項目もある。体力の合計得点についても、全体的に回復傾向にあるが、中学生と高校生の女子が低下傾向にある。

県の課題である「握力」については、全ての校種において、ここ数年ほぼ横ばいの状況が続いている。「シャトルラン」、「ボール投げ」については、全体的に回復傾向にあるものの、中学生と高校生の女子が低下傾向である。

「50m走」については、全ての校種において、令和元年度の前後を境に低下が見られていたが、全体的に回復傾向にある。「長座体前屈」については、年々向上する結果となっている。

アンケートによる調査結果からは、体力が高い児童生徒はスクリーンタイムが短い傾向にあるという結果となっている。

本県児童生徒の体育授業の愛好度については、「大変好き」「好き」と回答した児童生徒の割合が、小学校が93.4%、中学校が88.8%、高等学校が90.9%となっており、体育授業が楽しいと感じる児童生徒が多い状況である。

(3) 宮崎県学校体育研究会が進める研究

本県では、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における12年間の体育科・保健体育科学習を通して、学習内容の確実な定着を目指し、校種の接続及び発達の段階に応じた指導方法・評価の工夫を行い、豊かなスポーツライフの実現に向けた児童生徒を育てるための具体的な実践を行っている。

そこで、令和5～7年度は「ボール運動系ネット型」及び「球技ネット型」の領域において研究を深め、小中高特による「つながりのある学習」の一層の充実を図ることを目指す。

『つながりのある学習』における、「つながり」は、単に教材や領域種目を揃えることによるつながりではなく、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の12年間を見通し、発達の段階に応じて系統化された指導内容を明確化し、小中高特が同じ視点を持ちながら授業を展開することである。

「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の指導内容を、児童生徒に確実に身につけさせるために、授業への基本的な考え方や目指す児童生徒像を明確にし、共有認識をもちながら研究を進めていく必要がある。

4 研究を進めるにあたって

小中高特の「つながりのある学習」を展開する中で、体育科・保健体育科が育成を目指す三つの資質・能力を児童生徒が身に付けるために、以下の基本方針により研究を進めることとする。

① 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化

- ・ 発達の段階のまとまりを考慮し、各領域で身に付けさせたい具体的な内容の系統性を踏まえた指導内容の一層の充実を図る。
- ・ 指導の改善及び児童生徒の学習意欲の向上を図るとともに、個別最適な学びを実現するために、指導と評価の一体化を図る。

② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

- ・ 課題解決のための言語活動の充実や情報活用能力の育成、体験を伴う活動の充実などにより学習活動の質の向上を目指す。

③ 共生の視点に立った指導内容の充実

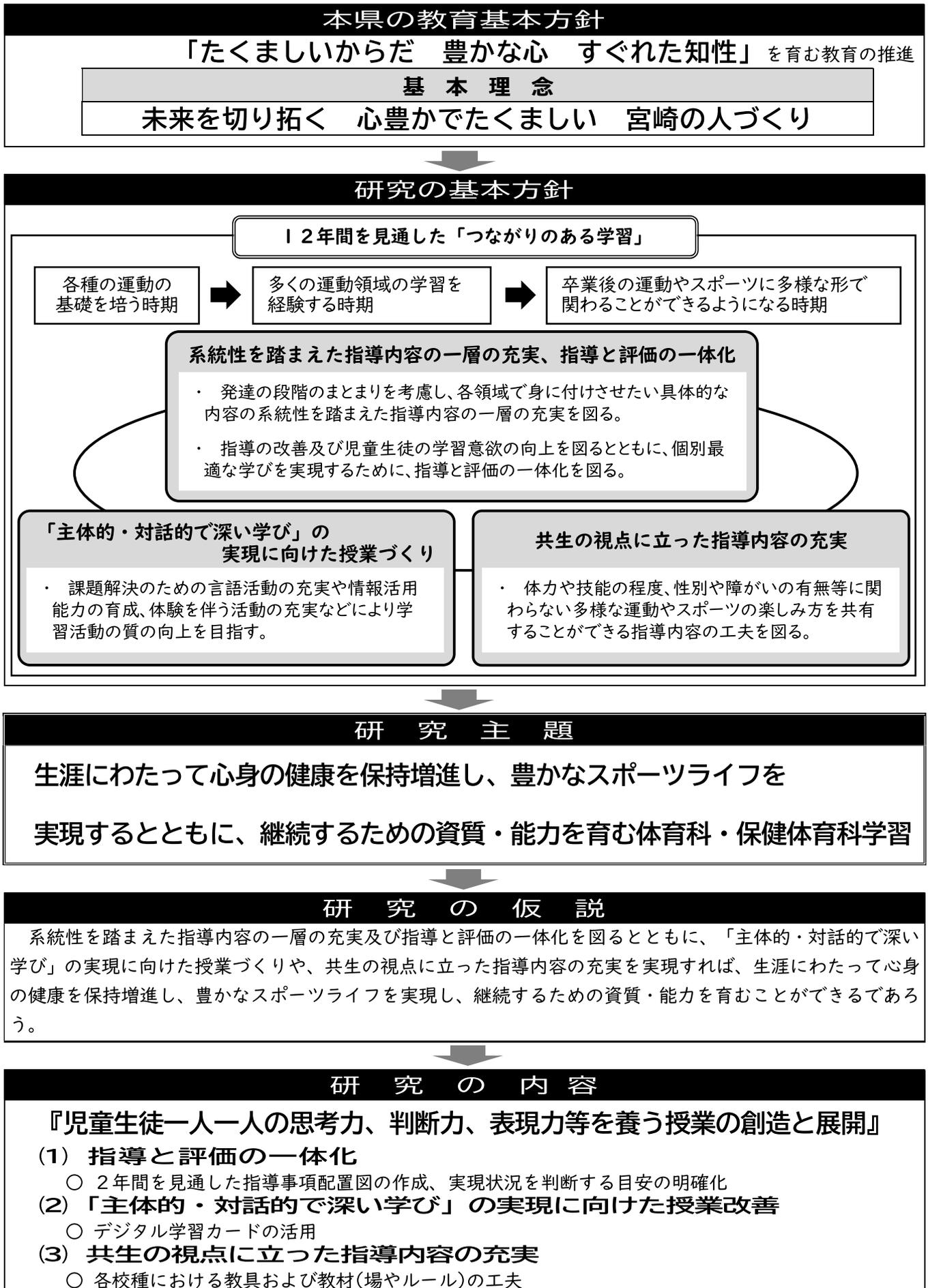
- ・ 体力や技能の程度、性別や障がいの有無に関わらない多様な運動やスポーツの楽しみ方を仲間と共有することができる指導内容の工夫を図る。

また、主題を「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現し、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習」と設定し、体育や保健の見方・考え方を働かせて課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目指し、多角的な視点での研究を進めることとする。

5 研究の仮説

系統性を踏まえた指導内容の一層の充実及び指導と評価の一体化を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりや、共生の視点に立った指導内容の充実を実現すれば、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現し、継続するための資質・能力を育むことができるであろう。

6 研究の概要（研究構想図）



7 研究の内容

(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化

① 「指導事項配置図」の作成（中学校・高等学校）

デジタル学習カードを作成するにあたり、2年間(中1-中2、中3-高1、高2-高3)を見通したバランスの良い指導事項配置図を作成する。また、1単元(バレーボール)に全ての指導と評価を網羅することが難しい場合には、別単元(ソフトボール等)に位置付ける。そのため、単元を超えた指導事項配置図の作成に取り組む。

② 「実現状況を判断する目安」の作成（小学校・特別支援学校）

学習指導要領例示に明記されている児童生徒像をB評価としたときの、A及びC評価の具体的な児童生徒の姿を明確化することで、指導と評価に活かす。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

三つの資質・能力を効率的・効果的に高めるための手段として、デジタル学習カードの作成と活用に取り組む。各校種の発達段階や実態に応じて活用方法を探っていく。

(3) 共生の視点に立った指導内容の充実

共生の視点に立ったバレーボール学習における新たな教材及び教具の充実に取り組む。

8 研究の実践

小学校部会

(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化

① 方法

小学校体育科における思考力、判断力、表現力等について、実現状況を判断する目安に対する、C・B評価の児童に対応する教師側の手立てを設定することで、指導と評価の一体化を図った。

② 考察

実現状況を判断する目安に対応した手立てを作成することで、児童の学習における実現状況を把握し、課題解決が必要な児童への手立てを講じることができる。

中学年：ネット型ゲーム評価基準に対する手立て

【思考・判断・表現】

C	B	A
<p>規則の工夫を提示し、選ばせる。</p>	<p>コート内でのボールの触球回数、得点の入り方などの規則を選んでいる。 教師の助言・チーム内での話し合い・動画視聴によって自分やチームに合った規則に気付かせる。</p>	<p>コート内でのボールの触球回数、得点の入り方などの規則を自分やチームの特徴に応じて選んでいる。</p>
<p>いくつかの作戦を提示し、選ばせる。</p>	<p>自分とチームの友達との連携を踏まえた作戦を選んでいる。 ゲームの中で相手の特徴に焦点を当て、動画確認をしたり、分かったことをチームで会話させる。</p>	<p>自分とチームの友達との連携と、相手チームの特徴を踏まえた作戦を選んでいる。</p>
<p>望ましい動作や言葉、絵図（ワークシート等）を例示する。</p>	<p>易しいネット型ゲームで、攻めや守りの際の工夫を、動作や言葉、絵図などを使って、友達に伝えている。 他のチームの声掛けやプレイの例示をして、自分のチームの参考にさせる。</p>	<p>易しいネット型ゲームで、攻めや守りの際の工夫や声を掛け合う連携などのいろいろなよいプレイを、動作や言葉、絵図などを使って、友達に伝えている。</p>

参考文献：高田彰成・森良一・細嶋淳二（2022）『確かな学習状況を見取る小学校の評価基準づくり』大修館書店



【中学年：ネット型ゲームでの手立て】

【教師からの助言で、規則を再検討した場面】

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

① 方法

デジタル学習カードは、PowerPointや発表ノートを用いて、全7時間分を作成しており、基本的に、1単位時間分を視聴覚教材、動画記録、振り返りシートなどで構成している。

自分やチームのプレーを動画で記録したり、ねらいに応じた振り返りやまとめを行ったりすることを通して、児童が自分の課題に気付いたり、成長を実感したりして、運動における主体性がより高まっていくことを意図している。

また、各チームでの話し合い活動においては、ポジショニングと役割について簡単な作戦を立てたり、動き方を視覚的に伝え合ったりできるように、作戦ボードや思考ツールを活用している。

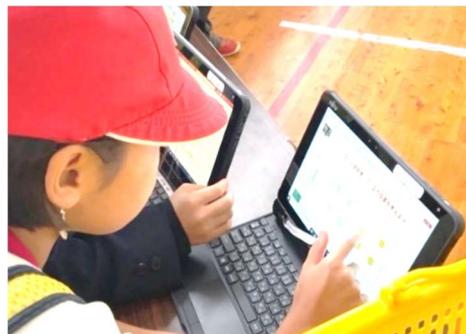
<p>4時間目 ねらったところにレシーブする。</p> <p>1 (ひざ)を曲げて、かまえる。 ○ ボールが来たら・・・ 2 ねらったところへ(体)を向ける。</p>	<p>動画を記録する</p>	<p>○4時間目</p> <p>【めあて】</p> <p>ねらったところへレシーブする</p> <p>【ふりかえり】</p> <p>ひざを曲げて、ボールが来たときに、ねらったところへ体を向ける</p> <p>自分のねらいを友達に伝えよう！</p>
視聴覚教材	動画記録	振り返りシート

【デジタル学習カード内の実際】

② 考察（単元後の意識調査より）

「デジタル学習カードの活用を通して、ソフトバレーボールの技能のポイントが分かり、自分の成長や課題を実感することができた。」と、約95%の児童が回答しており、課題づくりや問題解決に対する主体性を育むことに役立った。

「デジタル学習カードは、チームの作戦(ポジショニングや動き方の工夫)を考えたり、選んだりするヒントになった。」と約90%の児童が回答しており、各チームでの話し合いにおいて、効果的な活用が図られた。



【ポジショニングを確認する場面】

(3) 共生の視点に立った指導内容の充実

① 方法

単元テーマを「みんなでできる、みんなで楽しむソフトバレーボール」と立て、合計得点の中に「得点者数」を含む得点方法を、ルールとして設定した。

また、ゲームを行う上で、規則の工夫をさせたり、選ばせたりすることで、児童にみんなでできるようになる必然性を持たせ、互いにに関わり合い、一人一人が得点する楽しさを味わわせるようにした。



【単元のテーマ設定】

② 考察

テーマや得点方法の工夫から、運動が得意な児童が、苦手な児童に対してコツや動き方について伝えたり、得点できていない児童にボールを集めたりするなど、技能差や障がいの有無等に関係なく、全員が意欲的にソフトバレーボールに親しむことができた。

また、ゲームにおける規則の工夫や選択を行うことで、児童が単元で積み重ねてきた技能を振り返り、自分自身の能力に合った規則でゲームに参加することができた。それにより、児童の振り返りシートには「最初は、キャッチでやってみただけど、2回目はレシーブに変えてみてうまくいった。」等、技能の程度に合った規則の選択ができた児童が約92%だった。その他の児童は、「レシーブに挑戦したけど、ミスが多かったので、次回はもっと練習をしてできるようになりたい。」等と規則の選択を通して、自分の技能段階に気付き、次時の学習へ前向きに取り組もうとする意欲が見られた。



【得点をしていない児童にアドバイス】



【自分に合った規則を選択する】

中学校部会

(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化

①方法

デジタル学習カード作成に当たり、2年間を見通した指導事項配置図を作成した。作成の際、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の指導事項をバランスよく配置するとともに、形成的評価ができるよう設定した。

指導事項配置図(中学1年生-2年生)

●:重点指導機会 ○:複数回での指導機会 ※:評価対象とせず指導する機会

指導事項	第1学年										第2学年										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
知識																					
技能																					
思考力																					
判断力																					
表現力																					
学びに向かう力、人間性等																					

指導事項配置図(中学3年生-高校1年生)

●:重点指導機会 ○:複数回での指導機会 ※:評価対象とせず指導する機会

指導事項	第3学年															第1学年														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
知識																														
技能																														
思考力																														
判断力																														
表現力																														
学びに向かう力、人間性等																														

②考察

2年間を見通した指導事項配置図を作成することで、生徒一人一人の学習状況を明確にし、生徒の学習改善につなげると同時に、教師の指導の成果や課題を明らかにするものである。また、第1学年および第2学年の年度をまたいだ指導においても、未履修の防止に役立つとともに、より系統性のある見通しをもった指導が可能になると考える。加えて、本単元(ネット型:バレーボール)では網羅できない指導事項については、他単元(ゴール型・ベースボール型)に配置するよう「見える化」を図った。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

①方法

従来使用してきた紙媒体の学習カードを今回新たにタブレット上でデータ化することでより効率的・効果的な授業展開ができると考え、Power Point を活用したデジタル学習カードの作成を行った。保健体育科におけるタブレットの活用については、運動に取り組む時間や課題解決に要する時間を減少させないことを念頭に置き、以下に示す考えのもと作成した。

体育分野における ICT 活用の効果

体育分野

タブレットの活用 → 動きや技能の理解が深まる

→ 自己の課題が明確化 → 運動意欲向上

運動に取り組む機会や時間の増加(効率的)

動きや技能の習得(効果的)

『課題解決型の授業展開が期待できるのでは?』

③-1時間目『トスしやすいサーブレーションの方法を考えよう。』
 学習内容 ①パス練習 ②サーブ練習⇒レシーブ練習 ③ゲーム

③-5時間目『トスしやすいサーブレーションの方法を考えよう。』
 学習内容 ①パス練習 ②サーブ練習⇒レシーブ練習 ③ゲーム

Thinking トスしやすいサーブレーションとは?
 レシーブはその瞬間が攻守の切り替わり、攻撃としてとらえたとき、トスを上げやすいパスをどのようにセッター(トスを上げる人)に送るかが重要。
 ①と②どちらのレシーブの方がセッターに良いボールが返るだろうか?

デジタル学習カードによる生徒の記述

4-1時間目『一人一人の技能や体力の違いに応じて認め合おう』

学習内容 ①パス練習 ②サービス練習 ③ルールの設定 ④ゲーム

Thinking **バレーボールの魅力とは？**

【バレーボールにはどんな種類がある？】
ビーチバレー ミニバレー シンクタンバレー フォートレー

→ 生涯スポーツ

様々な違いを超えて、参加者全員が楽しめよう

【自分や仲間の違いに合わせて活動するためのには？】
⇒ みんなが楽しく見える活動(バレー)にするためには？
チームの人が得意な時に、得意ハイタッチなどをする。その楽しさは、声掛けなどで伝えよう。アドバンスなどを行う。1人の人がボールを触りすぎないようにし目が替わるようにする。

4-2時間目『一人一人の技能や体力の違いに応じて認め合おう』

学習内容 ①パス練習 ②サービス練習 ③ルールの設定 ④ゲーム

ルール設定の視点

①全員が楽しめる
②観戦性がある

【4-ルール設定後のゲームの感想】

ルールを設定することにより、1人1人の得意なことがより出て、楽しかったです。また、チームには得意な人があつたので良かったです。

【ルール設定の理由やオリジナル】

私たちの組は正規ルールにしたのですが、レシーブが苦手な人があつたので、レシーブがなくてもいいルールを作りました。私達のオリジナルルールは仲間を絶対に思いやります。

4-3時間目『一人一人の技能や体力の違いに応じて認め合おう』

学習内容 ①パス練習 ②サービス練習 ③ルールの設定 ④ゲーム

アダプテッドブック

【ルール設定後のゲームの感想】

ルール設定をすることにより、1人1人の得意なことがより出て、楽しかったです。また、チームには得意な人があつたので良かったです。

【ルール設定の理由やオリジナル】

私たちの組は正規ルールにしたのですが、レシーブが苦手な人があつたので、レシーブがなくてもいいルールを作りました。私達のオリジナルルールは仲間を絶対に思いやります。

6-1時間目『仲間とともにゲームを楽しむためのルールを考えよう』

学習内容 ①パス練習 ②サービス練習 ③ルールの設定 ④ゲーム

アダプテッドブック

【4-ルール設定後のゲームの感想】

ルールを設定することにより、1人1人の得意なことがより出て、楽しかったです。また、チームには得意な人があつたので良かったです。

【ルール設定の理由やオリジナル】

私たちの組は正規ルールにしたのですが、レシーブが苦手な人があつたので、レシーブがなくてもいいルールを作りました。私達のオリジナルルールは仲間を絶対に思いやります。

6-2時間目『仲間とともにゲームを楽しむためのルールを考えよう』

学習内容 ①パス練習 ②サービス練習 ③ルールの設定 ④ゲーム

① 一人一人の違いに合わせたルールを考案することができた。 ② オリジナルルールを考案することができた。

思考力・判断力・表現力

【1人の得意な事・不得意な事に合わせてルールを考えたりチーム全体で見た時に何が足りないかを考えルールを自分分で作ったり、チーム全体が楽しめるように目標ボールを触ったりする。また、得意した時はみんなで喜ぶ。】

分ちでルールを決めました。1回目のルール設定もみんなも楽しめたことと気づけるのがいいですね。そして2回目もみんなも楽しめたことと気づけるので1回目して良かったので、チーム全体の技能が上がってきたので良かったです。

つながりのある学習

②考察

視聴覚教材を活用したことで、説明が端的で分かりやすく効率的・効果的な技能の習得に繋がった。繰り返し視聴可能な模範映像により、個別最適な学びの実現にも大きな一助となった。さらに思考・判断・表現に関する活動にも十分に時間を割くことができ、3つの資質・能力の育成に大きな効果をもたらした。

(3) 共生の視点に立った指導内容の充実

①方法

バレーボールのゲームにおける様々な工夫(ルール及び場)を系統的に一覧表にまとめ、指導者が生徒の実態に応じて選択できるようにした。さらに、生徒自身がゲームのルールを考案する活動を通して“共生”の概念を理解し、チームの実態に応じたルールの工夫を行う活動へと展開した。

ボール	「もの」のアダプテッド			「ひと」のアダプテッド		
	ネットの高さ	コート幅	人数	サービス	サービス	ポジション
① 重球	① バドミントン (1.55m)	① バドミントン (狭い)	① 4人 (少ない)	① サービスなし (相手と交互)	① 投げ入れOK	① 固定
② ソフトバレー	② 支柱最低 (2.00m)	② 9人制 (広い)	② 9人 (多い)	② サービスあり (仲間と交互)	② どこからでも打ち込みOK	② セッター固定
③ ソフトサブ	③ 9人制 (2.15m)	③ 9人制 (広い)	③ チーム全員	③ サービスあり (仲間と交互)	③ サービスフォローOK	③ 前後移動
④ 正規ルール	④ 正規ルール	④ 正規ルール	④ 正規ルール	④ 正規ルール	④ 正規ルール	④ 正規ルール

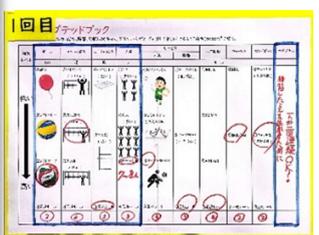
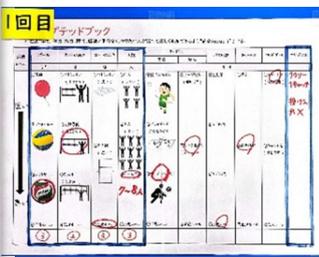
フェアプレイ

＜ 楽しさや安全性、公平性の確保/互いを尊重する気持ち ＞

仲間との協力

＜ 仲間との連携を高めて気持ちよく活動/人間関係の向上 ＞

アダプテッドシートを活用したルールの考案



②考察

授業を構成していく上で、生徒の実態に合わせてルールを変容させる系統表があることで、指導の一助となる。また、生徒主導でルールを決めさせることで共生の視点に立った考え方や行動ができてくるかの指導と評価の一体化に繋がった。一方で、様々な生徒の困り感に対して、“人”・“もの”・“ルール”の観点からそれぞれにアプローチすることが大切であることを再認識し、豊かな人間関係や共感的な態度を土台とした「ひと」のアダプテッドを明文化していくことが必要である。

ることができる。一方で回答をしない生徒や、タブレットを持参しない生徒、回答の選択肢を間違える生徒がいるのも現状であり改善が必要である。

教師側の評価と生徒自身の自己評価との整合性を図ることができると考える。

授業日・	評価の観点	評価項目	(知識) 具体的な内容について記入してください (技能) どのような効果があるか記入してください (思考・判断・表現) 見つける際の視点を記入してください (主体的に学習に取り組む態度) 具体的な内容について記入してください	(知識) 学習したことを記入してください (技能) 学習した技能のポイントを記入してください (思考・判断・表現) 具体的に気付けたことを記入してください (主体的に学習に取り組む態度) どのように取り組んだか記入してください	自己評価
2024/06/04	知識	【6/4(火)】(知識1) 技術、作戦の名称、動きのポイント、練習の方法などの変化をつけて打ち返すことができる。	2年のころにしていた打ち方は覚えていたものの、あまりうまく打てず失敗することも多かったので、体力をちゃんと考えながら無駄な動きを少なくしていきたいです。	様々なショットの名称や、シャトルの軌道などを再確認することができた。	B
2024/06/07	技能	【6/7(金)】(技能2) ボールを相手側の守備のない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。	やり方はわかっているけども打つコースが悪く簡単に返されてしまうので、工夫をしていけるようにしたいです。	ラリー中に相手のポジションを見たり、重心を見たりする。強弱を付けることが大切。	B
2024/06/11	思考・判断・表現	【6/11(火)】(思考・判断・表現1) 良い点や修正点を指摘している。	ユーチューブの体の動きとの違いは前傾姿勢でなかったりラケットをとめてしまったりとプレー中で思わずしてしまうような動きがうまくドロップを打てない原因でした。	打った後にラケットを止めてしまっていたので、改善しようとしたものの振りぬくと威力がついてしまい、力の調整が難しいと思いました。	B
2024/06/14	主体的に学習に取り組む態度	【6/14(金)】(主体的に学習に取り組む態度5) 仲間との課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。	ペアになった人のショットの苦手な部分などを教えてミスなどを改善できるような活動をした	自分の苦手なものをお互いに教えあいはしたが、その後の改善法などはおさえあっていなかった。	B
2024/06/18	技能	【6/18(火)】(技能8) チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。	ダブルスでの打ち方やフォーメーションなどを確認することで、攻撃力が上がる	いつものプレーで作戦もなくしてしまっていた	C

【ルッカースタジオ(バドミントン)】

(3) 共生の視点に立った指導内容の充実

①方法

高等学校においては、楽しむための工夫等に関しては生徒たち自身に話し合い活動を通して考えさせ、生徒たちが主体的にルール作りに取り組めるような手立てを行う。また、卒業後生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにする、という点に着目し、「する、みる、支える、知る」の視点から多様なかかわり方があることを生徒自身に考えさせる。

「できる」「できない」ことによる、教材の工夫だけでなく、生涯スポーツとして考え、何ができるか、どのようなかかわり方があるか、などの視点も取り入れた指導を行う。

②考察

Google フォームを用いて生徒にコートやルールの工夫を挙げさせ、主体的に生徒たち自身が作成したルールでゲームを行う。

楽しむための工夫等においては、小・中・高・特で類似した内容になる部分もあることを踏まえ、「する、みる、支える、知る」といった生涯にわたる豊かなスポーツライフを継続していく資質・能力の育成においても生徒に考えさせた。今年オリンピックやパラリンピックが開催されることや、様々な世界大会を例として取り上げることで、「する、みる、支える、知る」の各場面における多くのかかわり方を発見することに繋がると考える。

【体育の見方・考え方の視点に立った指導内容の充実】 種目(バレーボール) ↓

自己に達した「する・みる・支える・知る」などの運動を継続して楽しむ関わり方を見つけよう。

する(工夫)

- ①場所の工夫・・・コート(例) 狭くする、広げる
- ②道具の工夫・・・ネットの高さ、ボールの工夫(例) 柔らかい物、小さく、大きく
- ③ルール等の工夫・・・ポジション、点数化、ハンデューをつける等
- ④チーム編成の工夫・・・人数、男女、大人と子ども、等

みる(楽しむ工夫)

- ①TV放送の工夫・・・ルールや用語の紹介
- ②ドローンの活用・・・ポジションや選手の動き、戦術等がわかる
- ③判定機能・・・オンラインやタッチネットのプレイ検証の導入
- ④審判目録のカメラ着用・・・競技中のリアル感を共有できる
- ⑤スポーツツーリズム・・・スポーツ観光、地域観光スポーツイベント
- ⑥スポーツ観戦・・・パブリックビューイング、HUBや居酒屋などでの観戦

支える(支え方)

- ①選手に直接に関わる人
審判、トレーナー、栄養士、マネージャー、メンタルトレーナー、ユニフォーム作成
- ②活動場所の準備
体育館の管理、ネット支柱、点数板等の準備と整備、ボールの調達、トレーニング器具
- ③大会、遠征、合宿キャンプ等
ホテル、交通手段、運営ボランティア、地域の行政、食料の調達
- ④経済、世論、情報
グッズの作成販売、ニュース、雑誌等での報道、チームの宣伝、CM、地域や国を挙げての国際競技大会・キャンプの誘致
- ⑤ファン、サポーター
盛り上げ、応援メッセージ作成、試合中の応援指揮、選手の地元活性化

知る(知って深める)

- ①ルール・・・試合の基本、得点・採点方法、マナー、ルールを活かした戦術
- ②(競技の特性に応じた) トレーニング方法、試合前の予備運動、クーリングダウンの方法
- ③選手、チーム情報・・・推し選手の情報、過去の成績、取得タイトル、得勝技、大会情報
- ④バレーボールの歴史・・・どこから始まったか、道具やルールの変遷、文化、盛りんな国
- ⑤ボールの種類、素材・・・ソフトバレーボール、5号球
- ⑥スポーツビジネス関係・・・企業チームのこと、バレーボールの社会性→小学生から高校、大学まで

「する、みる、支える、知る」の視点の中で、実現可能な事を課題として設定し、バレーボールの授業で出来る事と考えてみましょう。

↑記入した内容は、豊かなスポーツライフを継続する上で、何を養うものにつながるかを付けてみましょう。

愛好的態度・公正・協力・責任・参画・共生・健康安全

特別支援学校部会

(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化

①方法

指導内容の系統化を図るために、小学部「ボール遊び」「ボールを使った運動やゲーム」、中学部、高等部「球技 ネット型（主にバレーボール）」における『学習内容系統表（実現状況を判断する目安）』と『学習内容系統表（手立て一覧表）』を作成した。

「思考力、判断力、表現力等」の『学習内容系統表（実現状況を判断する目安）』については、昨年度日南くろしお支援学校が、小学校から中学校までの学習指導要領解説を参考に作成した、学習内容系統表を基に作成した。学校独自に小学部Ⅰ段階から高等部Ⅱ段階までを7つの段階に分け、つながりを示した。そこに示された内容に対して、A・B・Cの具体的な評価を明確化することで、指導と評価の一体化を図った。また、児童生徒をA・B評価にするための手立てや工夫として、『学習内容系統表（実現状況を判断する目安）』と関連付けた『学習内容系統表（手立て一覧表）』を作成した。

「知識及び技能」の『学習内容系統表（実現状況を判断する目安）』と『学習内容系統表（手立て一覧表）』も同じく作成した。特別支援学校の学習指導要領解説及び例示を参考にし、「思考力、判断力、表現力等」と同様に、小学部Ⅰ段階から高等部Ⅱ段階までの7つの段階に分け、A・Bの評価の明確化、手立てや練習方法の具体例を示した学習内容系統表を作成した。

3段階		4段階		5段階		6段階		7段階	
小3段階		中1段階		中2段階		高1段階		高2段階	
使った運動やゲーム		E球技 (ゴール型、ネット型、ベースボール型)		E球技 (ゴール型、ネット型、ベースボール型)		E球技 (ゴール型、ネット型、ベースボール型)		E球技 (ゴール型、ネット型、ベースボール型)	
「BからA」	・ルールを学び楽しむことができるようにするために、的当てやビン倒しなど勝敗を意識したゲームができるようにさせる。	「BからA」	・様々な練習方法の中から教師の助言を聞いて、練習方法を選択できるようにするために動画等をおして教師と一緒に課題を確認できるようにさせる。	「BからA」	・練習方法を選択肢から選ぶことができるようにするために練習やゲームの動画や写真と一緒にご覧いただき一緒に課題を考へることができるようにさせる。	「BからA」	・教師の示すポイントを踏まえて、仲間の良かった点を伝えることができるように動画で個人練習やゲームを視聴し仲間の動きを観察させる。	「BからA」	・自分の良い点や仲間の良かった点を伝えることができるように動画で個人練習やチーム練習を確認し、良かった点を伝えさせる。
「CからB」	・ボールを使った運動を楽しむことができるようにするために、的当てやビン倒しなど簡単なゲームができるようにさせる。	「CからB」	・様々な練習方法の中自分の技能に合った練習方法を選択するために教師と一緒に課題を確認できるようにさせる。	「CからB」	・友達と話し合った意見の中から練習方法を選択できるようにするために練習やゲームを教師と一緒に振り返らせる。	「CからB」	・課題解決に向けた適切な練習方法を選択することができるように自他の課題について理解させる。	「CからB」	・取り組んで効果的であった練習内容を繰り返し取り組むことができるように活動した内容を振り返らせる。
「BからA」	・自分でやりたいことを選択することができるようにするために、活動カードを複数準備し選択させる。	「BからA」	・必要な用具の正しい使い方を知るためにイラストや写真等を使い安全な準備や片付けの仕方を覚えることができるようにさせる。	「BからA」	・ケガや事故の怖さを知ってもらうためにイラストを見せ、どのようなケガや事故に繋がるのかを知ることができるようにさせる。	「BからA」	・きまりを守って参加するために安全のために注意してチェックを使って確認	「CからB」	・運動の特性に合わせた動きを準備運動として取りこ

「思考力・判断力・表現力等」
学習内容系統表
(手立て一覧表)の抜粋

②考察

『学習内容系統表（実現状況を判断する目安）』を作成することで、小学部Ⅰ段階から高等部Ⅱ段階までの7つの段階のつながりを確認でき、より見通しをもった指導ができるようになる。またそれらを踏まえ、児童生徒の実態に応じた指導内容の選択や目標の設定、評価が行いやすくなる。またそれらを踏まえ、児童生徒の実態に応じた指導内容の選択や目標の設定、評価が行いやすくなる。またそれらを踏まえ、児童生徒の実態に応じた指導内容の選択や目標の設定、評価が行いやすくなる。

『学習内容系統表（手立て一覧表）』を作成することで、教師が児童生徒の実態に応じて手立てを選択したり考えたりでき、個に応じた的確な支援により児童生徒の力をより引き出すことができる。またそれらを踏まえ、児童生徒の実態に応じた指導内容の選択や目標の設定、評価が行いやすくなる。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

①方法

三つの資質・能力を効率的・効果的に高めるための手段として、デジタル学習カードの作成と活用に取り組んだ。各学部それぞれの実態に合わせてデジタル学習カードを作成することで、これまで学習した内容や動きのポイント、練習方法、感じたことや話し合ったことについて、児童生徒が自ら振り返りながら学習を進めていけるようにした。

また、教師が撮影した模範動画などの視聴覚教材を使用することで、児童生徒が身近なものとして捉え、視覚と聴覚に強く働きかけ、より理解しやすいようにした。各学部の発達段階や実態に応じて、内容や活用方法を工夫した。

②考察

デジタル学習カードを活用することで、効率的・効果的に資質・能力を高められると考える。教師が実際にその場で模範を示したり、毎時間説明をしたりする時間が短縮できるとともに、児童生徒が自分たちの好きなタイミングで見直すことができるといった利点が予想される。デジタル学習カードに、学習した知識や活動における感想等を記入することで記録が残り、児童生徒の振り返りのみならず、教師の評価にも役立てることができると思う。

特別支援学校の児童・生徒向けの動画・静止画の撮影



ICTの実践事例



③-1 『ボールの落下地点に入ろう』

学習内容① サービスの仕方
サービス：プレイ開始の方法で、サービスゾーンから相手コートにボールを打ち入れること

【 】ハンドサービス
難しさ：★

(右ききの場合)
 ① 左手で支えているボールをそのまま打つイメージ
 ② 体重を前に移動しながら打つ



(3) 共生の視点に立った指導内容の充実

①方法

小学部・中学部・高等部が異なる場所に位置するという本校独自の設置形態の条件下で、知的障害、肢体不自由、病弱などを併せ有する児童生徒や医療的ケアを必要とする児童生徒における授業の実践のため、発達段階を踏まえながら、年間指導計画の見直しを行った。小学部の「ボール遊び」「ボールを使った運動やゲーム」、中学部、高等部の「球技」の実施時期を同時期に合わせることで、系統的な指導方法を模索できるのではないかと考えた。

見直しを行った各学部の年間指導計画に、タブレット端末などの ICT 機器を活用した教材の工夫をまとめた、ICT活用実践シートを位置付けた。一つ一つが具体的な事例であるが、指導方法の一つのアイデアとして活用できるようにした。

体力や技能の程度、障がいの程度に関わらず、一人一人がもつ能力を十分に発揮し、全員で楽しく運動に取り組むことができるように、ルール（ボールの種類、キャッチの有無、パスの回数、プレイ中の追加得点）や教材・教具を工夫し、それらを各学部間においても共有できるようにした。

いちばんさいごにおちたボールにちゅうもく!!



じっさいにみてみよう ▶

⑧-4 『いろいろなルールを知ろう』

ふりかえろう③

やってみたいルールはありましたか？ ○○○

<p>キャッチ</p> <p>あり</p>  <p>なし</p>	<p>サービスのしかた</p> <p>うつ</p>  <p>なげる</p>	<p>パスのかいすう</p> <p>3</p> <p>ぜんいんがさわるまで</p> <p>なんかいでもOK</p>
--	---	--

⑥-2 『3回つなく良さを理解しよう！感じよう！』

学習内容① ボールの種類と特徴

	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールの硬さ 【 】 ・ボールのスピード 【 】 ・難しさ 【 】 	<p>むずかしい</p>  <p>やさしい</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールの硬さ 【 】 ・ボールのスピード 【 】 ・難しさ 【 】 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールの硬さ 【 】 ・ボールのスピード 【 】 ・難しさ 【 】 	

②考察

ルールや教材・教具の工夫を教師間、学部間で共有することで、児童生徒の実態や学習状況に応じた幅広い指導や支援につながる。様々なルールで行うゲームを経験した後に、これまで経験したルールの中から自分たちで選択し実践することで、共生の視点について思考・判断・表現していくことができると考える。

第 65 回宮崎県学校体育研究発表大会小林・えびの・高原地区大会

研究内容及び研究の方向性と授業の視点

1. 研究内容及び研究の方向性

- (1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化
- ① 中学校及び高等学校では、2年間を見通したバランスの良い「指導事項配置図」を作成
 - ② 小学校及び特別支援学校では、AおよびC評価の「実現状況を判断する目安」を作成
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり
- 3つの資質・能力を効率的・効果的に高める手段として、デジタル学習カードの作成と活用
- (3) 共生の視点に立った指導内容の充実
- 共生の視点に立ったバレーボール学習における新たな教具及び教材の充実

2. 授業の視点

部会名	該当学年・活動内容	(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化	(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	(3) 共生の視点に立った指導内容の充実
小学校	第4学年 (5/7時間目) ネット型ゲーム 「ソフトバレーボール」	学習評価の実現状況を判断する目安を基に、評価における児童の姿と評価に応じた手立てを明確にすることで、指導と評価の一体化を図る。	児童が主体的に学習を振り返ったり、互いに伝え合ったりする場面でチームの課題解決を行うために、デジタル学習カードを活用する。	児童同士が互いに認め合い、ゲームの規則やルールを選び、工夫することで、みんなが楽しく運動に取り組むことができる指導を行う。
中学校	第2学年 (6/11時間目) ネット型ゲーム 「バレーボール」	単元計画を作成するにあたり、2年間を見通した指導事項配置図を作成し、順序性にも着目しながら、より系統性のある指導と評価の一体化を図る。	視聴覚教材や思考ツール、適切な発問を盛り込んだデジタル学習カードを活用することで、効率的・効果的な資質・能力の育成を目指す。	人・もの・ルールの工夫が一覧となった“アダプテッドシート”を作成し、生徒の実態に応じた指導の手立てとして活用する。
高等学校	第1学年 (11/16時間目) ネット型 「バレーボール」	中学第3学年からの2年間を見通した指導事項配置図を作成し、系統性を持った指導と評価の一体化を図る。	デジタル学習カードで、学んだ内容、その意義とポイントについて認識させることで、3つの資質・能力を効率的・効果的に高める手段とする。	体力や技能の程度、性別等に配慮して、仲間と共に楽しむために、ルールや教具、声かけ等を工夫して、豊かなスポーツライフの実現につなげる指導を行う。
特別支援学校	高等部:全学年 (12/14時間目) ネット型 「バレーボール」	学習内容系統表に示した各段階の目標に対して、A および C 評価を明確にし、個々の実態に応じた適切な指導と評価の一体化を図る。	生徒たちが主体的に活動に取り組むために、デジタル学習カードを活用する。(個人やチームの課題発見、ルールの工夫や選択、感想等の記入)	ルールや教材を工夫することで、生徒一人一人がもつ能力を発揮し、全員で楽しく運動に取り組むことができる指導を行う。